

II 事業の概要

1 教育事業の実施状況

【久留米信愛女学院短期大学】

1 短期大学の概要

(1) 設置する学科

幼児教育学科、フードデザイン学科、ビジネスキャリア学科

(2) 学科の入学定員、学生数の状況（平成27年5月1日現在）

学科名		27年度	26年度	備考
幼児教育学科	入学定員	100	100	
	収容定員	200	200	
	在籍者数	144	135	
	充足率 (%)	72.0	67.5	
フード デザイン学科	入学定員	40	40	
	収容定員	80	80	
	在籍者数	63	55	
	充足率 (%)	78.7	68.7	
ビジネス キャリア学科	入学定員	40	40	平成28年度 入学生より 募集停止
	収容定員	80	80	
	在籍者数	25	37	
	充足率 (%)	31.2	46.2	
全学	入学定員	180	180	
	収容定員	360	360	
	在籍者数	232	227	
	充足率 (%)	64.4	63.0	

(3) 卒業生、学位授与の状況について 平成27年3月

	幼児教育学科	フードデザイン学科	ビジネスキャリア学科	合計
平成25年度入学生	2	1	0	3
平成26年度入学生	70	30	15	115
在籍者数	64 (徐1・退7)	27 (退4)	15	106
卒業資格なし	1	0	0	1
卒業生（短期大学士）	63	27	15	107

2 はじめに

2018 年を境に 18 歳人口は激減期に入る。前年の 2017 年は短期大学設立 50 周年である。2017 年を短期大学再生のリミットと考え、平成 23 年度に「50 周年プラン」を策定し、P D C A サイクルを稼働させ具体的取組みを展開している。

しかしながら学生確保には困難が伴い、とくにビジネスキャリア学科において平成 26 年度は収容定員の半数に満たず、27 年度はさらにそれを下回ることになった。そこでビジネスキャリア学科の平成 28 年度の入学生の募集を停止することとし、短期大学は平成 29 年度から 2 学科編成であらたに出発することとなった。

3 平成 27 年度の重点的取組み

(1) 短期大学再生プラン

①現状と課題

平成 25 年度に学科再編成を論議し、平成 26 年度に 4 大化の可能性を探ったが、短期大学のまま生き残ることが決定され、幼児教育とフードデザインの実学の 2 学科体制で再出発することになった。平成 27 年度においては、幼児教育学科は定員の 8 割、フードデザイン学科は約 9 割の入学生を確保し、再生の道が開けたかに見えたが、平成 28 年度入学生は、幼児教育学科 5 割 5 分・フードデザイン学科 5 割になり、前年度から大幅減、学生募集に関してはふりだしに戻った。

②平成 27・28 年度の 2 年間の取組み

平成 27・28 年度の 2 年間で平成 29 年度からの 2 学科体制の準備・移行期間と位置づけ、平成 29 年度からの単年度で収支の合う事業体をめざし、教育・研究・社会貢献の質を向上させるとともに学生募集の強化を図ったが、学生募集に関しては結果が伴わなかった。

ア、学生募集の強化

幼児教育学科・フードデザイン学科ともに入学定員に入学者数を限りなく近づけることを目標に強化に努めたが大幅減の結果になった。その要因を次のように分析する。幼児教育学科・フードデザイン学科ともに県内の人気校が以前より入りやすくなり、その他の短期大学が減少している。幼児教育学科においては、保育者不足報道において保育者の待遇の悪さが取り上げられ、高校生に影響を与えている。フードデザイン学科においては、高校の教員の管理栄養士志向が主たる要因と考える。

平成 27 年度の状況を分析し、平成 28 年度の学生募集・広報強化の具体策を次のように定めた。

平成 29 年度入学生 学生募集・広報強化の具体策 短期大学

1、オープンキャンパス

【課題】27 年度はオープンキャンパスの参加者が減少した。参加者を増やす取り組みとオープンキャンパスの内容の見直しが必要である。

【対策】従来 7 月 2 回（土・日）8 月 2 回（土・日）10 月 1 回のオープンキャンパスを 5 月 1 回（日）7 月 1 回（日）8 月 2 回（日・日）10 月 1 回に日程変更。内容は展示部門を追加。

2、社会人学生

【課題】18 歳人口の減少に伴い社会人入学生の増加が求められる。

【対策】昨年度から新聞折り込み「パコラ」に掲載。入学には至らなかったが問い合わせが数件あり継続。HP で社会人入学の特典を強調。

3、マーケット

【課題】筑後地区の 18 歳だけでは定員を満たせない。

【対策】熊本県の入試広報活動を強化。熊本市内で教員対象進学説明会を実施。

4、学外者からの情報

【課題】学内だけでの論議・発想には限界がある。

【対策】進研アドによる研修及び香蘭短大入試広報課長を招き研修会を実施。

5、SNS を使った広報活動

【課題】今日の若者の生活に沿った入試広報活動を実施する。

【対策】スマートフォン・ユーチューブ・ツイッターの新規開設及び充実。

6、経済的に困難な家庭に対する方策

【課題】短期大学進学層は経済的に困難を抱える家庭が見受けられる。

【対策】就学支援 A O 入試を新規導入。

7、高校訪問の強化

【課題】本学は専従職員ではなく教員が訪問している。

【対策】訪問回数を 4 回に増加及びマニュアルを改訂。

8、教職員の危機意識とモチベーション

【課題】危機意識の共有とともにモチベーションを高める必要がある。

【対策】3 月末に全教職員が 1 日を使い研修会を実施。

イ、人間教育及びジェネリックスキル

人間教育はカトリックの精神に基づき「信愛教育 I II III IV」をコア科目として展開した。「社会人基礎力」（経産省）・「学士力」（中教審）・「汎用的能力」とも呼ばれる「ジェネリックスキル」（コミュニケーション能力・説明力・チームワーク・リーダーシップ・論理的思考力・問題解決力・問題発見力・倫理観・自己管理能力・文章表現力、など）の

重要性を共通認識し、「信愛教育」を中心に他の科目や行事を通して学生に形成したがより徹底させる必要がある。

ウ、専門教育

- ・他大学との差別化

学科のコアコンピタンスの共有とそれをもととしたカリキュラム編成（カリキュラムポリシー）を行ったが学生募集戦略にはつながらなかった。

- ・学生の到達度の明確化

学生が身につける能力や技術を明確に設定し、到達度を測定し、学生一人ひとりの成長を保証するとともに、学科における教育力を向上させる。学生がどこからどこまで成長したかの可視化を試みたが完成には至っていない。

(2) 50周年プラン

平成 23 年（2011）度から平成 29 年（2017）度までの 6 年間の短期大学の中・長期計画を策定した。P l a n（計画）→D o（実行）→C h e c k（評価）→A c t i o n（改善）の循環を確立し、短期大学設置 50 周年に向けて総力を挙げて大学改革に取り組んだ。平成 28 年度が最終年度である。

4 幼児教育学科

(1) 教育活動の充実

- ①平成 27 年度から実施されている新子ども・子育て支援システムへの対応、本学の保育者養成力の向上を図るため教育内容の点検を行い、平成 28 年度入学生からカリキュラムについて開講期変更などの改善を実施した。
- ②大学全体のディプロマポリシーに加えて、新たに学科のディプロマポリシーの策定並びに履修系統図を策定した。
- ③平成 28 年度入学生から実施する 4 つのプログラムと 3 つのプラスアルファについて、実施するにあたっての担当者調整など最終確認を行った。
- ④履修カルテの改善を実施すると共に、ゲストスピーカーとして保育現場で活躍する保育者を招き、より実践的な学習プログラムを実施した。

(2) 学生支援の充実

就職部と連携して保育職面接特訓講座などを実施したほか、福岡県幼稚園連盟の筑後部会・福岡部会、佐賀県幼稚園協会と養成校との懇談会への参加や実習訪問指導などの機会を通じて情報交換を行い信頼関係を深めた。結果として 700 件以上の保育職の求人が確保でき、就職率も 3 月末で 100%（保育職等の専門職 97.2%）を達成した。

(3) 研究活動の活性化

10 月 29 日に保育職を対象としたリトミックのワークショップを、本学幼児教育学科教職員と卒業生で構成する信愛保育研究会と国際幼児教育学会との共催で開催し、43 名の保育者が受講した。また、研究活動としては、本学科教員から本学第 39 号研究紀要に 5 編の投稿があった。

(4) 地域参画

おもちゃライブラリーを拠点にして、地域の子育て支援に参画した。具体的には昨年度に

引き続き、「信愛つどいの広場」（週3回）、「子育て支援講座」（月1回）、「子育て相談」などを実施した。また、地域の子育て支援に関する行政への協力として、久留米市社会福祉審議会や久留米子ども子育て会議等への委員協力を実施した。

(5) その他

8月に教員免許更新講習（幼稚園教諭対象）を実施、さらに希望者多数でキャンセル待ちが多数出たため、10月～11月の土日を利用して追加講習を実施し、延べ約380名が受講者した。また、平成28年度から変更される点についての内容検討を行い、平成28年度教員免許更新講習の文部科学省への申請を行った。

高大連携は南筑、明光学園、誠修、三井中央、福岡海星女子学院との連携事業を実施し、他の高校への職業理解等の出前講座も実施したが、結果として志願者増には結び付かなかった。

5 フードデザイン学科

(1) 公開講座

平成27年度は、2講座開講した。

①「みんなの食育講座Ⅰ - 卓（テーブル）へのお誘い」

講師：八木なほ子氏（本学非常勤講師、食空間コーディネーター協会認定講師）

- ・第1回 春編 平成27年5月30日（土）
- ・第2回 夏編 平成27年8月29日（土）
- ・第3回 秋編 平成27年9月4日（土）
- ・第4回 冬編 平成28年1月30日（土）

受講者数はのべ114名であった。

②「みんなの食育講座Ⅱ - 高齢者のやさしい食事づくり」

講師：水島美保氏（山口内科管理栄養士、在宅訪問管理栄養士）

- ・第1回 平成27年9月5日（土）
- ・第2回 平成27年12月12日（土）

受講者数は26名であった。

(2) 地域企業との共同開発

平成27年度は、地域企業等3団体との連携活動に取り組んだ。

1つは、平成22年度からの「JAくるめとの連携事業」の継続である。内容は、JAくるめ広報誌「With You」の「うまかもんクッキング」コーナーへ、毎月のテーマとなる久留米産農産物を使った料理レシピを学生が考案して掲載するものである。

2つめは、平成27年2月号から取組んだ「くるメディア」情報誌への月1回の「久留米信愛短大の元気レシピ」の掲載である。本活動は西日本新聞印刷内に事務局を置く、編集デザイン会社スプラッシュからの依頼である。これまで本学科で取組んだ発表レシピを中心に、本学の広報活動も含め実施している。

3つめは、CTC-LANKA（企業）、福岡県および久留米市、本学との産官学連携事業として、「ココナッツの有効成分を利用した健康食品の開発」研究会（通称、「ココナッツ研究会」）の活動である。27年度は、キャラメル、パウンドケーキ、クッキー等のレシピを協議した。

(3) 50周年プランの新目標および計画への取組み

プランⅠ「定員確保」については、(1)平成28年度入学生目標数を大幅に割ってしまった(目標38名に対し20名入学)。結果、学生総定員(80名)に対する28年度在籍率は66.25%に落ちた(27年度78.75%)。(2)社会人入学生の継続確保は達成した(3名)。

プランⅡ「栄養士としての資質向上」への取組みは、概ね目標を達成した。内、「卒業生へのリカレント教育」は未実施であるが、27年度は本学科企画の公開講座への案内を行った。

(4)「フードデザイン室」ほか調理・給食施設の開放

本年度は、フードデザイン室ほか調理・給食施設を下記の2団体(研修会)に施設開放を行った。

- ・久留米大学講義「食と健康」における調理実習(4回)
- ・久留米市学校給食会研修会(1回)

6 ビジネスキャリア学科

(1) 教育活動の充実

学生の希望就職先に応じた指導を強化した。全員がビジネス実務士及び上級ビジネス実務士の資格を取得した。

新資格「調剤事務管理士」について、履修者は11名、取得は2名にとどまった。

(2) 就職支援活動の充実

学生の進路決定率100%達成した。就職先は地方公務員の行政職1名、金融機関1名を始め地元の堅実な優良企業である。また、3分の1の学生が医療機関及び調剤薬局の事務職として就職した。

(3) 地域社会への貢献

① 中心市街地活性化事業

クリスマスショップ「メルシィ」の活動を行った。そのほか、土曜夜市への参加、「まちなか万博」への学生コンペへの参加など様々な形で中心市街地活性化に関わった。

② 公開講座の実施

「親子で作る『夏の思い出DVD』」講座を8月に開講した。参加者は2組4名であった。

(4) 卒業生の支援

「マナーインストラクター」資格試験の開催には至ることができなかった。

7 おわりに

2018年を境に18歳人口は激減期に突入する。各大学の生き残りの戦いの最後のステージである。その前年の2017年、短期大学は設立50周年を迎える。2017年の短期大学設立50周年をどう迎えるか。それによって、本学院の創立50周年後の50年が決定する。教職員一人ひとりのポテンシャルを信じ、「一の心、一の魂」の精神をもって、知恵と汗を絞り、難局を乗り切りたい。

【久留米信愛女学院中学校・高等学校】

1 重点目標の達成について

重点目標：カトリックミッションの女子校であることのアドバンテージを活かす教育活動を推進し、地域の信頼を確かなものとする。グローバルな視点と能動的に学ぶ姿勢を育成し、進路実現から自己実現へと導く。

「進路実現」については、国公立大学 25 名合格、私立大学 138 名合格と、昨年度に並ぶ合格者を出すことができました（下記 2 (1) の表参照）。

2 教育活動

(1) 生徒の成長段階に合わせた進路学習会・講演会の実施や個人面談等のきめ細かな進路指導を通して、進路意識の高揚を図りました。過去 7 年間の大学等合格状況の推移は次の通りです。

年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
卒業者数	115	102	94	92	105	89	90
国公立大学	※1 19	15	※2 20	※3 14	※5 25	※6 25	※7 25
私立大学	126	144	111	86	129	117	138
海外の大学	1	0	0	※4 1	0	3	※8 1
短期大学	31	29	23	25	14	19	6
うち信愛短大	24	18	16	18	11	11	4
専門学校	9	7	14	8	11	9	9
就 職	0	2	4	2	0	0	1

※1 防衛大学校一次合格 3 名を含む。 ※2 防衛大学校一次合格 5 名を含む。

※3 防衛大学校一次合格 2 名を含む。 ※4 既卒生。ハンガリー国立大学医学部合格。

※5 防衛大学校一次合格 6 名、水産大学校合格 1 名を含む。

※6 防衛医科大学校合格 1 名、防衛大学校合格 1 名、航空保安大学校合格 1 名、防衛医科大学校一次合格 1 名、防衛大学校一次合格 4 名を含む。

※7 防衛大学校合格 1 名、防衛医科大学校一次合格 1 名、防衛大学校一次合格 1 名を含む。

※8 既卒生。ハンガリー国立大学医学部合格。

合格した主な大学は次の通りです。

〔国公立大学〕 広島大学・熊本大学 2・佐賀大学 5・長崎大学 2・島根大学・首都大学東京・群馬県立県民健康科学大学・神戸市外国語大学・山口東京理科大学・北九州市立大学 4・福岡県立大学・熊本県立大学・名桜大学

〔私立大学〕 上智大学・青山学院大学・立教大学・中央大学・津田塾大学・日本大学・南山大学・関西大学・関西学院大学・同志社大学・立命館大学・西南学院大学 11・福岡大学 9 他

〔海外の大学〕 ハンガリー国立大学医学部

(2) 理数系に強い女子の育成について、進学実績から見てみると理系学部学科への進学は37%と高い数字を示しています。医学部医学科へは4年連続合格者を出しました。女子の特性を踏まえた学習指導の充実と視野を広げるための各種研修会への参加督励等を行った結果と見えています。その基本となるのは日常から行っている寄り添う指導です。きめ細かな個別指導及び全体指導を行い、3年間または6年間をかけての進路意識高揚を図っています。これから必要とされる社会人基礎力とも言うべき「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の育成は本校が得意とする領域です。生徒に寄り添い、大学受験を睨みながらもさらなる進路指導の充実を考えていきたいと思えます。

(3) グローバル化がさらに加速する中、国際的視野の育成プログラムを充実させ、国際交流の深化と語学研修の充実に努めました。

プログラム	概要
カナダ修学旅行	高校2年生(78名) 10月実施 バンクーバー周辺 6日間 4泊ホームステイ セント・トマス・アキナス校との交流
韓国研修旅行	高校1年一貫生希望者(26名参加) 10月実施 ソウル・天安 姉妹校福者女子校との交流 3日間(うち1泊はホームステイ)
ニュージーランド研修	中学3年希望者(18名参加) 8月実施 オークランド 10日間 姉妹校セント・ドミニクス・カレッジでの語学研修
福者女子校との交流会	MERS感染リスクを回避するため、先方の申し出により今年度の本校への来校は中止 信愛ビデオレター送付 例年 高校2年 7月実施 九州への3日間の修学旅行の一環として生徒、教師、ガイド来校 本校生徒宅へのホームステイ 平成28年度実施予定
イングリッシュ・セミナー	中学1年 7月末実施 3日間 英検受験級ごとにクラス編成しての集中セミナー 面接指導
インターナショナル・キャンプ	中学2年(24名参加) 7月末実施 3日間 西南学院大学 イマージョン型(英語漬け)研修
合唱部イギリス遠征	平成27年度に実施 合唱部員希望者 3月実施 イギリス ロンドン、サウスエンド・オン・シー、ボーンマス、トーキー 地元合唱団との交流及び各地での演奏会
海外留学(1年間)帰国	高校2年:3名(アメリカ、カナダより)
海外留学(1年間)出発	高校1年:1名(カナダへ)
留学生の受け入れ	高校1年に1名 フィリピンより(1年間)
海外短期研修参加者	高校1年に2名(タイ 8月 8日間)
聖マリア病院留学生(医療従事者)との交流	中学2年49名 10月実施 国際交流事業研修員8名(男性7名・女性1名)が自国のプレゼンテーション その後グループに分かれて折り紙講習等の交流

アメリカ領事館 主催英語講座	高校2年対象 9月実施 米国ウィチタ州立大学、私立メリルハースト大学の広報担当者より英語学習や留学の意義について講義 講座後講師と生徒有志で座談会
イングリッシュ・ サプリメント	昼休みに自学室で開催 自由参加で昼食をとりながら、TEDや大統領演説、映画やドラマを視聴

3 広報活動

地域の全般的な学校評価としての側面を持つ入学者数・一貫進学者数は、過去7年間は次のとおりに推移してきました。

年 度		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	
中 学 校	※志願者	110	128	121	92	99	104	112	
	入 学 者	文理	23	21	20	20	18	17	22
		文理S	25	23	16	24	22	20	24
		医進	18	17	24	15	11	15	19
		計	66	61	60	59	51	52	65
高 等 学 校	※志願者	273	320	266	222	230	192	202	
	入 学 者	※学際	25	39	34	20	33	26	24
		特進	19	—	—	—	—	—	—
		※選抜	11	16	17	19	14	12	17
		特進一貫	26	34	28	38	24	22	30
		医進一貫	8	20	12	21	11	22	14
		計	89	109	91	98	82	82	85
中高入学者計	155	170	151	157	133	134	150		
※中高入学者指数	100	110	97	101	86	86	97		

※ 中学校の志願者は〈A日程〉・〈B日程〉の志願者の合計人数

※ 高等学校の志願者は【推薦・専願】・【一般（前期・後期）】・【補充募集】の志願者の合計に一貫生の進学者を加えた人数

※ 高等学校の「学際コース」は、2010年度まで「進学コース」、2015年度まで「学際特進コース」

※ 高等学校の「選抜コース」は2015年度まで「S特進コース」

※ 中高入学者数指数は、2010年度を100とした数値

中学校では、平成28年度（2016年度）入試で志願者数112名、前年度比8%増となり、65名入学で前年度比25%増となりました。しかし予想した志願者数には及ばなかったため、理由を詳細に分析し、学習塾との円滑な関係の構築、小学校への積極的なアプローチなど、広報戦略の展開を見直す必要があります。また、今年度実施した信愛オープン学力診断テストの効果とも併せて分析検討する必要があります。

高校では、平成 28 年度から、従来の学際特進コースと S 特進コースをそれぞれ学際コース、選抜コースとします。学際コースはさらに 4 つのフィールド（幼児教育・フードデザイン・看護医療・総合）に分け、学ぶ内容が明確になるように改編しました。しかし、平成 28 年度（2016 年度）入試では志願者数 202 名（前年度比 5%増）と増加しましたが、歩留まりはあまり変わらず昨年並みの入学者となりました。一貫生の他校受験が 9 名と例年に比して多かったこともあり、入学・進学者数は 85 名となり、入学者数 3 名増に留まりました。コースとフィールドの周知や広報計画について改善の必要があります。

4 その他

- (1) 中学 1 年から高校 3 年まで学年単位、または学年合同で発達段階に応じた行事、テーマに合わせて、「神父様の講話」や神父様のご指導のもと行った「学年ミサ」、「学年錬成会」や「みことばの祭儀」、職員対象のミサなどを通して、カトリック学校としての教育理念の確認、「信愛教育」の徹底を図ってきました。
- (2) 同窓会との連携で、5 月に「ロザリオの集い」（人生の節目となる 40 歳・60 歳の集い）、11 月に「菊の香の集い」（教職についている卒業生の集い）、12 月に「MESSAGE 28 ～卒業生と在校生の交流会～」(卒業後 10 年の先輩による講話)、1 月に「信愛成人式」などを催し、卒業生と教職員・生徒との絆を大切にしつつ、「女性の一生をサポートする」学院の姿勢の明確化・定着に努めました。「野のゆり奨学金」が「野のゆり入学お祝い金」となって 2 年目、同窓生の子女の入学をサポートしています。
- (3) 福岡県副知事の主催する「福岡女性いきいき塾」出身のメンバーの方々を中心に、社会に出てリーダーシップを取りながら活発に働く女性の皆さん 10 名ほどを招聘して、高校 1 年生が少人数のグループに分かれ交流する「働く女子と学ぶ女子の座談会」を 3 月に催しました。人前で自分を押し出す場を設け、自己表現力やコミュニケーション能力を高める機会としました。
- (4) 後援会との連携で、「信愛近隣北地区」・「信愛近隣南地区」・「久留米市街東地区」・「久留米市街西地区」・「久留米南西地区」・「久留米北東・三井地区」・「田主丸・吉井・うきは地区」・「甘木・朝倉地区」・「八女・筑後地区」・「小郡・筑紫野・太宰府・福岡地区」・「鳥栖・三養基・佐賀地区」の 11 地区で地区保護者会・懇親会が開催され、後援会のネットワークが一層強まりました。
- (5) 後援会との連携で「信愛父親の会 (Shin-ai Dads' Club)」が発足し 3 年目を迎えました。活動は 5 月に体育祭のテント立て、9 月に文化祭警備、12 月上旬にイルミネーション設置作業と点灯式、下旬に受験生応援のための餅つき会と 4 回に増え、更に充実したものとなりました。

【久留米信愛女学院幼稚園】

1 27年度の重点目標達成について

子ども子育て新制度への移行、保育園利用者の増加など、幼稚園にとって厳しい状況にあって、「子どもに良い教育を」という保護者を対象に下記の3点に重点目標をおき取り組んだ。しかしながら目標園児数235名には及ばなかった。

(1) 生涯価値・・自分の生活世界を包む超越的な世界、神様の存在を知らせる。

- 幼児期は「吸収する心」が活発に働いているため、信愛の環境の中で神に向かう心、祈る心、感謝する心や、優しさや真実に気づくそのような感性が豊かに育った。
特に未就園児クラスは保護者から好評である。よって、つぼみ・アンジェラ入会者から入園に繋がった。
27年度のつぼみの延べ人数は67名であった。

(2) 固有価値・・モンテッソーリ教育の強化。

- 1歳から3歳までのクラス（つぼみ・アンジェラ・アンジェリーナ）は主に日常生活がスムーズに出来るよう、保育士の行動をしっかりと見せながら身につけさせた。
- 3歳から6歳までは、特別援助が必要な子ども以外は、年齢別の進度表に従って、日常・感覚・数・言語と目標達成が出来た。
- モンテッソーリ教育を受けて成長した子どもの特徴が表れていた。
 - ・順序立てて活動していた。
 - ・段取りが良く、先を見通すことができていた。
 - ・状況の読み取りが早く、臨機応変に対処出来ていた。
 - ・自分で選び最後まで責任を持つことが出来ていた。
 - ・優しさ、落ち着き、喜びがありみんなの為に奉仕する事が出来ていた。
 - ・年長児は、卒園までに足し算引き算の仕組みを理解していた。
 - ・五十音を正しく書き、読むことが出来ていた。
 - ・雑巾が正しく絞れていた。

(3) 非言語価値・・園全体を包む園の雰囲気を見えるようにする。

- 花に包まれた園庭、職員の立ち居振る舞いや清潔感、園内の整理整頓、園全体を包む雰囲気が優しさと温かさに満ちているとの評価を保護者や外部から頂いている。

2 その他の取り組み

(1) 第1・第3土曜日の（未就園児）

年間11回の来園者91名

広場参加者の声「親子クッキングがしたかった。」「親子体操が楽しかった

(2) 土曜学校(第1・第3土曜日) 小学1年～6年対象

年間12回の参加者34名

- ・卒園時贈呈した旧約聖書の話聴き感想文を書いた。
- ・ひよこ本舗を見学した。
- ・そうめん流し・ボーリングを楽しんだ。

(3) 預かり保育マリア組

- ・早朝保育7時から夕方19時までの長時間預かりは好評。
- ・マリア組預かり月平均40名（土曜日含む）
- ・長期休暇の預かりは平均50名（土曜日含む）

2 管理運営の実施状況

(1) 理事会・評議員会の開催状況

理 事 会	H27. 4. 1	1	1 理事長選任の件 2 評議員選任の件 3 前理事長退任にともなう退職金支給の件 4 理事選任の件
	H27. 4. 21	2	1 理事長職務代理順位の件 2 久留米信愛女学院短期大学 学則改正の件 3 資産運用方針の件
	H27. 5. 19	3	1 平成26年度事業報告の件 2 平成26年度収支決算承認の件 3 久留米信愛女学院高等学校 コース名変更の件 4 「久留米信愛女学院幼稚園 園長任用規程」改正の件 5 「久留米信愛女学院短期大学 教員の任期に関する規程」制定の件
	H27. 6. 16	4	1 久留米信愛女学院高等学校 コース名変更の件 2 財務状況の件
	H27. 7. 21	5	1 借入金の返済計画変更の件 2 財務分析の件 3 「資産運用規程」改正の件 4 資産運用方針の件 5 資産運用の件
	H27. 9. 15	6	1 久留米信愛女学院短期大学ビジネスキャリア学科学生募集停止にともなう人事の件 2 学生寮廃止の件 3 資産運用の件
	H27. 10. 21	7	1 平成27年度第1回補正予算案の件 2 久留米信愛女学院高等学校 学則改正の件 3 平成27年度途中人事の件
	H27. 11. 17	8	1 平成28年度予算編成基本方針の件

理 事 会	H27. 12. 15	9	1 久留米信愛女学院短期大学 平成27年度遠隔地奨学金の件 2 平成28年度人事の件 3 「マイナンバー制度」への対応の件 (1)「個人番号及び特定個人情報の取扱いに関する基本方針」の制定 (2)「個人番号及び特定個人情報取扱規程」の制定 (3)「就業規則」の改正
	H28. 1. 19	10	1 久留米信愛女学院短期大学 学則変更の件 2 「個人番号及び特定個人情報取扱規程」制定の件 3 資産運用の件
	H28. 2. 16	11	1 久留米信愛女学院短期大学 学則変更の件 2 平成28年度人事の件
	H28. 3. 22	12	1 平成28年度事業計画案の件 2 平成28年度収支予算案の件 3 中学校・高等学校 特待生・スカラシップ等の件 4 短期大学 入学金減免規程の改正および制定の件 5 平成28年度人事の件 6 名誉教授称号授与の件 7 「学校法人久留米信愛女学院 就業規則」の改正および「学校法人久留米信愛女学院 ハラスメント防止規程」制定の件 8 「一般事業主行動計画」策定の件 9 理事長報酬の減額の件

評 議 員 会	H27. 5. 19	1	1 平成26年度事業報告の件 2 平成26年度収支決算承認の件
	H27. 10. 20	2	1 平成27年度第1回補正予算案の件 2 久留米信愛女学院高等学校 学則改正の件
	H28. 3. 22	3	1 平成28年度事業計画案の件 2 平成28年度収支予算案の件

(2) 施設設備の整備状況

平成27年度の主な施設設備については下記のとおり整備しました。

部 門	明 細	金 額	備 考
共 通	図書館高压ケーブル交換工事	2,700,000 円	
	図書館屋上防水工事	1,613,561 円	
	図書館閉架書庫書棚増設	280,800 円	
	図書館視聴覚室プロジェクター更新	250,560 円	
短期大学	管理部門（学長室・事務室等）屋根防水工事	1,566,000 円	
	1501講義室スタッキングテーブル・ミーティングチェア	1,077,600 円	卒業記念品
	レッスン室アップライトピアノ	500,000 円	
	学生玄関ロビーベンチクロス貼替工事	194,400 円	卒業記念品
高等学校	LL教室CALLシステム更新	19,621,440 円	5年リース
	コンピュータ室什器更新	2,910,600 円	
	生徒用机・椅子更新	864,000 円	
	美術教室空調機器更新	806,760 円	
	液晶プロジェクター（4台）	548,640 円	卒業記念品
	LL教室音響機器更新	521,785 円	
	音楽室グランドピアノ修繕	486,000 円	
	事務室新設工事	302,400 円	
	グローリアホール電動暗幕カーテン取替工事	252,720 円	
	教室・廊下等塗装工事	201,960 円	
中学校	コンピュータ室タブレットシステム更新	16,750,800 円	5年リース
幼稚園	入口アーチ門全面塗装・遊具修繕等	576,679 円	
	聖劇背景画	210,000 円	H26年度卒園記念品